



## CONTENTS

- 1-トピックス 第115回品質管理シンポジウム 報告
- 2-私の提言 品質管理のさらなる研究・普及のためにさまざまな立場での学会活動推進を
- 2-ルポルターージュ 第434回事業所見学会ルポ
- 3-ルポルターージュ JSQC規格「方針管理の指針」講習会ルポ
- 3-ルポルターージュ 第133回クオリティ・トータル
- 4-行事案内 / 代議員・役員選挙告示 / 2023年4月の入会者紹介

発行 一般社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507

ホームページ:www.jsqc.org/

## 第115回品質管理シンポジウム 報告

～原点回帰し、「方針管理」を見直すための議論が展開される！～

一般財団法人 日本科学技術連盟 品質経営創造センター 部長 安随 正巳

半世紀を超える歴史を誇る、日科技連主催「品質管理シンポジウム」(以下 QCS)の第115回は、集合(大磯プリンスホテル)とオンラインのハイブリッド形式で2023年6月1日～3日の日程で200名を超える参加者のもと開催された。テーマは「顧客価値創造を実現できる組織能力の獲得に向けて「方針管理」を見直す」であった。TQMのコアツールである方針管理に関して白熱した議論が行われたが、その模様を報告する。



主担当組織委員 永田 靖氏

### 115QCS 講演者一覧

[6月1日(木)]

■特別講演「観察データと実験データ」

永田 靖氏 早稲田大学 教授

[6月2日(金)]

■講演 1

「方針管理の温故知新」

光藤 義郎氏 (一財)日本科学技術連盟 嘱託

■講演 2

「経営環境変化に対応するTQM(方針管理)の活用」

原田 聡氏 トヨタ自動車九州(株) コーポレート本部長

■講演 3

「飯塚病院におけるTQMの展開と方針管理」

増本 陽秀氏 (株)麻生 飯塚病院 院長

■講演 4

「企業存在価値の創造 品質経営」

奥田 正直氏 (株)竹中工務店 常務執行役員

■講演 5

「お客様への新たな価値提供を実現する方針管理」

原 和彦氏 アクシアル リテイリング(株)

代表取締役社長

QCSは、①講演 ②グループ討論・発表 ③総合討論の3本柱で構成されている。今回の講演者は前記の通りであった。

紙面の制約から講演内容の紹介は割愛するが、方針管理に関する企業事例を中心として興味深い講演が数多く行われた。

また、今回のトピックとしてはCOVID-19の影響により3年間中止していたQCSの醍醐味「談話室(通称:QCバー)」の復活が挙げられる。

\*

企業を取り巻く環境変化に伴い、TQMそのものも大きく変化している。当然、方針管理活動もその範囲は広がり、ビジョン・中期経営計画・経営戦略などの設定条件やそのしくみの高精度化も求められている。その意味で、今回のQCSはこれからの方針管理の在り方を考える上で新たな提案もあり、今後に向けて意義深い議論が展開されたといえよう。

グループ討論は、方針管理に関する8つの切り口からテーマが設置され、最終日には、8グループからの討論結果の発表後、参加者全体による総合討論が永田靖氏の司会で行われた。

方針管理を確実に精度高く実施するためには、日常管理の実力が前提となる。そのためには、問題解決・課題達成の理解と実践が大切である。

また、プロセスを変える必要が発生するときは方針管理、変える必要がないときは日常管理と区分する。さらに、顧客価値創造はコトづくりであり、これからはコトづくりの方針管理のしくみと方法論を検討する必要がある、などの提言も含め、大変意義深い議論が行われた。



総合討論 実施風景

まとめ内容は、QCS webサイト(<https://www.juse.jp/qcs/>)に掲載しているので、是非参照して欲しい。

\*

次回のQCSは、日本科学技術連盟理事長 佐々木真一氏が主担当を務め、テーマ「日本の産業競争力向上を実現するこれからの品質経営～品質経営のパラダイムシフト～」として2023年11月30日～12月2日に開催される予定である。2019年にQCSで発出した「令和大磯宣言」を受け、「これからの品質経営」の研究を日科技連で重ねてきたが、その集大成ともいえる場である。多くの会社役員、部門長ならびに学術関係者の参加を期待したい。

## ● 私の提言 ●

品質管理のさらなる研究・普及のために  
さまざまな立場での学会活動推進を

岡山商科大学 西 敏明



現在、会員サービス委員会を担当しています。学会員の皆様もご存じのように、会員数は減少傾向にあります。

しかし、賛助会員数は増えています。このことは賛助会員を構成する産や組織の学会への期待は大きくなっているものと思っています。

学会運営のために、理事会および構成している各種委員会からの発信で、会員増に向けての活発な活動がされているのはご存じのことと思います。今後も産と学が合わさって、さらに活発な活動

が展開されると確信しています。

学会を構成する理事会、各種委員会、事務局の活発な様子を肌で感じているせいか、以前よりも品質誌が届くのを楽しみにしています。投稿論文はもちろんのこと、学会誌編集委員会の多大なるご尽力により、従来からの発信に加え、最近の話題も多くあり、学会誌編も楽しく、そして興味深く読んでいます。

品質管理は、私自身が大学院生であった30年ほど前と比べると、はるかに多くの分野に適用・深化され、普及促進されています。これも産学を含め、先人の研究活動や、現会員の皆様の継続的な普及、研究の賜ではないかと思えます。直近の「品質」(Vol.53, No.2, 2023)での部会研究活動報告、研究会活動報

告など、その研究の広がりは大いと思われれます。これは品質管理のコアであるQualityがあらゆる研究分野、業種においても存在し、そのQualityが大変重要なことであることの証であると思います。

また学会関連で、これからJACQ (Japan Association Quality) 設立による相乗効果により、設立に関与した各種団体による普及や、学会員の皆様、特に学の研究推進や産の組織における適用や研究が進むと思われれます。

今後も益々、学会の役割は大きくなると思われれます。そのためにも、学会員の皆様のそれぞれの立ち位置、立場で学会活動をすることが、今まで以上に多くの分野への普及や、従来の分野での深化につながるものと思っています。

今後も行事を通じてのアンケートなどで、学会員の皆様のニーズや思いを把握し、三現主義に根ざした会員サービスに繋がっていただければと思っていますのでご支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

第434回  
事業所見学会  
ルポダイキン工業(株)  
Biz プラザ名古屋

令和5年2月21日(火)にBiz プラザ名古屋にて「ニューノーマル下でのIAQ (空気の品質)、AI・IoTを活用した品質改善の取り組み」をテーマに開催、16名が参加した。コロナ禍の前から「空気の品質」にこだわりを持って独自の製品・技術開発を行ってきたダイキン工業で上手な換気、空気清浄の方法など現地・現物で学べる良い機会となった。

始めに設備営業部SEグループ担当課長の太田様より会社概要を説明いただいた。続いてビル設備およびショールームの見学ツアーを実施。ビル設備では建屋全体が様々な空調方式の効果検証用にフロア単位で実運転されており屋上では室外機、フロアでは空調・換気ユニットを、ショールームでは住宅および業務用の空調、換気、清浄機能などを現物で説明いただき、たいへん興味深く見させていただいた。

見学後、空調CS向上プロジェクト企画担当課長の

松山様より「AI・IoTを活用した品質改善の取り組み」についてご紹介いただいた。まずアフターサービス情報の監視により市場の故障率などの情報を可視化しスピーディーな対応を可能としている。またビッグデータの分析による故障診断アルゴリズムを作成して効率的なサービスを実現している。次にモノづくり現場での品質改善活動については、AI・IoTを上手く活用した具体事例を紹介いただいた。

続いて太田様より空気環境改善、特にエアロゾルの対策として上手な換気、空気清浄の方法をお話いただいた。特に自然換気ができない場合でも確実な換気に加え省エネと快適を実現する高機能換気設備として温度や湿度そのまま換気がおこなえる全熱交換器ベントィエールがあることを教えていただいた。また換気設備の導入も難しい場合、ストリーマー、HEPAフィルタ、深紫外線除菌の3つの組み合わせで強力に空気清浄をする方法も教えていただいた。

最後に本見学会開催や講演のご対応いただいたダイキン工業株式会社の皆様に心から感謝申し上げます。

澤田 昌志 (株)アイシン)

## JSQC規格 講習会 ルポ

### 「方針管理の指針」 －方針管理によって改善・ 革新を促進する－

表題のオンライン講習会が、2023年3月16日午後、約30名の参加者の中で開催された。講師の安藤之裕先生は、まず副題「変化への対応の切り札」に力を入れて本講習会の目的を語られ、参加者の心を引き込む講習スタートとなった。

TQMの中核となる活動は、プロセス及びシステムの維持向上、改善及び革新である。変化の中で事業目的を達成するためには、従来の延長に無い改善及び革新が必要であり、この取り組みを全員参加で行う活動が方針管理である。そして成果が得られれば標準化を行い日常管理（維持向上）に活かして行くというPDCAとSDCAの関係等を明快に解説いただいた。続いて、方針管理のプロセスの中核は、組織方針の策定、展開、実施と管理、期末レビューにあるが、展開では上位と下位や関連部門間のすり合わせが重要と強調された上で、部門における方針管理の進め方を中心に解説いただいた。

規格をまとめる上での意見調整の過程や、少々未完成で発行に至った部分などをお話しいただいたことにも本講習会の大きな価値を感じた。参加者は、規格の制約条件や応用可能範囲などを理解し、規格を正しく使える能力を与えていただいたのではないだろうか。

質疑応答では多くの質問が出たが、安藤先生は決して高い立場からではなく、常に質問者と回答を共創することに心を尽くされていたように感じた。質疑の中では経営者の立場からと思われるものが目立った。今回解説いただいた規格は、中長期経営計画・事業戦略に基づいた期ごとの事業計画をマネジメントすることに焦点を当てているが、経営者は組織のビジョンを明確に示せと言われても、どうやって整理し、決定すればよいのか迷うことも多いと思う。今後、ビジョンの明確化を含む、中長期経営計画・事業戦略の策定に焦点を当てた指針の制定も期待したいところである。

次々と質疑応答が続く、学会ならではの白熱した講習会を、多くの参加者が楽しめたのではと感じる短い4時間であった。

西川 史一（QMS審査員）

## 第133回 クオリティーク ルポ

### 3Hで学ぶ ヒューマンエラー 対策とは

2023年4月26日(水)に第133回クオリティークがオンラインで開催された。長年ヤマハ(株)で生産技術に携わった、鈴木宣二技術士事務所の鈴木宣二氏を講師に迎え、「3Hで学ぶヒューマンエラー対策とは」をテーマに講義をいただいた。ヒューマンエラーは、あらゆる業界において安全や品質などを脅かす要因として問題視されており、その未然防止対策は、多くの組織の共通のテーマである。今回のクオリティークには関東を中心に全国から多くの参加があり、ヒューマンエラー対策に対する関心の高さが伺えた。講義の前半にはヒューマンエラーの事故例の紹介とそのメカニズムについての説明があった。毎日の歯磨きの手順のように、特に考えたり、意識的に思い出そうとする努力をしなくとも、身体が自然に次々動く一連の動作のことを「行為スキーマ」といい、そこに中断が入るとミスを犯しやすい。「アクセルと

ブレーキの踏み間違い」や「ねじの締め忘れ」などは、「行為スキーマ」の中断が原因であることが多い。また、その未然防止対策としてポカヨケや過去の事故例や疑似体験から予測する危険予知トレーニング(KYT)について説明があり、未然防止に大変有効であることが理解できた。さらに、ヒューマンエラーには人間の知覚・認知能力が深く関係しており、それには性格が影響することから、未然防止のために自分の性格を知ることが大切であり、その手法の1つとして「エゴグラム・セルフテスト」をご紹介いただいた。後半の講義では、品質トラブルの発生原因となる3H（初めて、変更、久しぶり）に注目し、4Mの視点から管理する方法について学んだ。生産現場では日々意図しない4Mの変化が多く発生しているが、それを「3H発見シート」などを活用して、洗い出し～対策実施を日常管理として運用する手法は大変参考になった。その他にも具体的な対応例や組織での運用事例など現場目線での事例も多くご紹介いただき、大変有益なクオリティークであった。

加藤 真司（株）フジキン

## 行事案内

●**第134回クオリティトーク（東日本）**  
 テーマ：食の安全：HACCPの本質を理解してISO22000を使いこなす  
 ゲスト：荒木 恵美子 氏（東海大学）  
 日時：2023年6月23日(金)13:00～15:30  
 会場：オンライン（Zoomミーティング）  
 詳細・申込：https://jsqc.org/134qtalk/

●**第149回講演会（関西）ハイブリッド**  
 テーマ：品質不正の防止とTQMの活用  
 日時：2023年6月30日(金)13:30～16:40  
 会場：1.日科技連 大阪事務所 研修室  
 2.オンライン（Zoomミーティング）  
 プログラム：  
 講演1 品質不正の防止とTQMによる変化に対応できる・変化を生み出せる組織能力の獲得  
 中條 武志 氏（中央大学）  
 講演2 経営環境変化に適応するTQMの活用  
 高倉 宏 氏（トヨタ自動車九州）  
 詳細・申込：https://jsqc.org/149lecture/

●**第136回クオリティトーク（東日本）**  
 テーマ：人間工学にもとづく改善活動  
 ゲスト：福井 類 氏（東京大学）  
 日時：2023年7月5日(水)18:00～20:30  
 会場：オンライン（Zoomミーティング）  
 詳細・申込：https://jsqc.org/136qtalk/

●**第179回シンポジウム（中部）**  
 テーマ：組織・意識改革から価値創造を考える  
 日時：2023年7月19日(水)13:00～17:00  
 会場：オンライン（Zoomウェビナー）  
 プログラム：  
 基調講演 顧客満足からカスタマーデライトへ  
 水流 聡子 氏（東京大学）  
 特別講演 顧客価値創造に貢献できる現場力の育成と強化  
 猪原 正守 氏（大阪電気通信大学）  
 事例講演 顧客価値を創造し続けるスマートコンストラクション最新の挑戦  
 小野寺 昭則 氏（EARTHBRAIN）

事例講演 顧客との共創によるソリューション品質管理の取り組み  
 横江 明 氏（ブリヂストン）  
 パネル討論  
 詳細・申込：https://jsqc.org/179sympo/

●**第180回シンポジウム（関西）**  
 テーマ：品質の多様性における状況と組織マネジメント  
 日時：2023年7月26日(水)13:15～17:00  
 会場：オンライン（Zoomミーティング）  
 プログラム：  
 講演1 観光と地域活性における企画とサービスの品質  
 須佐 淳司 氏（就実大学）  
 講演2 小児感染症の医療現場の状況および対策の質  
 笠井 正志 氏（兵庫県こども病院）  
 講演3 製品開発における知財戦略の質創造  
 赤松 勝 氏（コベルコ科研/弁理士）  
 パネルディスカッション 品質の多様性における状況と組織マネジメント  
 詳細・申込：https://jsqc.org/180sympo/

●**第133回研究発表会（関西）発表募集**  
 日時：2023年9月8日(金)10:00～16:15(予定)  
 会場：関西大学 千里山キャンパス  
 特別講演：荒木 孝治 氏（関西大学）  
 (1) 申込期限  
 発表申込締切：7月28日(金)  
 予稿原稿締切：8月25日(金)必着  
 参加申込締切：9月6日(水)  
 (2) 研究発表・事例発表の詳細・申込方法  
[https://jsqc.org/133technical\\_cfp/](https://jsqc.org/133technical_cfp/)  
 (3) 参加申込の詳細・申込方法  
<https://jsqc.org/133technical/>

●**第435回事業所見学会（西日本）**  
 テーマ：マツダにおける「フレキシブル生産」によるモノ造り革新  
 日時：2023年8月4日(金)13:00～16:45  
 見学先：マツダ 本社工場  
 定員：30名

## 代議員・役員選挙告示

日本品質管理学会第53年度～第54年度（2023年11月11日総会～2025年総会）の代議員ならびに役員選挙を次の日程で行います。

立候補・推薦受付：

6月21日(水)～30日(金)

投票期間：8月1日(火)～31日(木)

開票日：9月13日(水)

詳細・申込：https://jsqc.org/435visit/

●**第137回クオリティトーク（東日本）**  
 テーマ：知っておきたい最新・機能安全の考え方と進め方  
 ゲスト：伊藤 誠 氏（筑波大学）  
 日時：2023年8月25日(金)13:00～15:30  
 会場：オンライン（Zoomミーティング）  
 詳細・申込：https://jsqc.org/137qtalk/

●**第135回クオリティトーク（東日本）**  
 テーマ：MTシステムの探究  
 ゲスト：永田 靖 氏（JSQC会長/早稲田大学）  
 日時：2023年9月19日(火)18:00～20:30  
 会場：オンライン（Zoomミーティング）  
 詳細・申込：https://jsqc.org/135qtalk/

●**第437回事業所見学会（関西）**  
 テーマ：パナソニックライティングデバイス(株)での「新価値創造」の取り組み  
 日時：2023年9月22日(金)13:00～17:00  
 見学先：パナソニックライティングデバイス  
 定員：30名  
 詳細・申込：https://jsqc.org/437visit/

## 事務局

JSQCホームページ：[www.jsqc.org/](http://www.jsqc.org/)  
 本部：E-mail：jimukyoku@jsqc.org  
 中部支部：E-mail：nagoya51@jsa.or.jp  
 関西支部：E-mail：kansai@jsqc.org

## 2023年4月の入会者紹介

2023年4月17日の理事会審議において、下記の通り正会員2名、準会員12名、賛助会員2社3口の入会が承認されました。

（正会員2名）○岸 弘朗（UACJ）

○野久保 俊一（高圧ガス保安協会）

（準会員12名）○浦田 悠生・齋藤 航（慶應義塾大学）○重枝 エリカ・中野 裕遼・杉崎 友亮・山谷 季生・中村 優太・林 修平・藤井 蒼馬・中村 彰吾・井上 裕喜（早稲田大学）○山近 七弥（名古屋工業大学）

（賛助会員2社3口）

○富士岐工産 ○東日本電信電話

名誉会員：25名 職域会員：50名

正会員：1651名 賛助職域会員：12名

準会員：59名 公共会員：15口

賛助会員：156社230口